

識別番号	P16
研究課題	「イスラーム地域研究」の展開と可能性：ラーホール国際会議を通じて
研究代表者	私市正年（イスラーム研究センター長／外国語学部アジア文化副専攻教授／アジア文化研究所所員）
共同研究者	川島緑（外国語学部アジア文化副専攻教授／アジア文化研究所所長）、赤堀雅幸（外国語学部アジア文化副専攻教授／アジア文化研究所所員）、三代川寛子（アジア文化研究所客員所員）、登利谷正人（イスラーム研究センター特別研究員）
Summary	Summary Contemporary Islamic regions share problems linked to history, religion, politics, and economics. The Islamic Area Studies program sponsored by the NIHU (National Institute for Humanities) commenced in 2006 as a network-type research program. Its goal was to carry out a comprehensive study of these problems, and Sophia University was nominated as one of its units. The Center for Islamic Studies was established in order to promote this research project, and it currently carries out joint research with other network units, such as Waseda University (which serves as the headquarters of the program), the University of Tokyo, Kyoto University, and Tōyō Bunko (the Oriental Library). The Center for Islamic Studies is composed of research groups studying on the theme of “Modern Experiences of Muslims and Their Networks”, and the topics dealt with are as follows: (1) The Social Roles of Islamic Movements Dissociated from Political Factions, (2) The Expansion and Development of Popular Islam, (3) The Realities of the Islamic Networks that Link South-East Asia, the Middle East, and Africa. Meetings and conferences are periodically held in order to discuss issues of mutual interest with researchers and students from all over Japan, and international conferences are organized in collaboration with other units.

1. 研究の目的及び背景

「イスラーム地域研究」とは、イスラームとイスラーム文明に関する実証的な知の体系を築くことをめざす新しい研究分野である。その開拓と推進のため、2006年より人間文化研究機構（NIHU）と共同で、本学を含む5つの大学・研究機関に研究拠点を設け、相互に連携しながら活動を行うネットワーク型の共同研究である NIHU プログラム「イスラーム地域研究」が開始された。2011年4月から第2期活動が開始され、本年はその3年目にあたる。

第2期において、本学拠点では「イスラーム近代と民衆のネットワーク」を研究テーマに掲げて研究を推進している。そこで具体的な研究課題となるのは、①イスラーム運動における社会的活動、②イスラーム書を介した人と情報のつながり、③スーフイズム・聖者信仰複合によって結ばれるイスラーム的ネットワーク、の3つの個別課題である。

また、2008年から2012年度まで本プロジェクトが採択された文部科学省委託事業「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」の一環として、本学拠点では公募研究「イスラーム社会の世俗化と世俗主義」と拠点強化事業「イスラームをめぐる諸宗教間の関係の歴史と現状」の2つのテーマに取り組む研究グループも組織して研究活動を行った。

2. 研究の方法・内容

具体的な研究方法として、まず、イスラーム運動組織の出版物、主要なイスラーム知識人の政治思想、国際認識、教育思想と教育運動、スーフィズムや民衆イスラームについて、アラビア語、マレー語などの現地語一次資料を体系的に収集・分析し、欧米言語資料も併用しつつ、これらの活動や思想の特徴を明らかにする。次に、これらの分析を通じて、西アフリカから、中東・東南アジアにまで広がるイスラームの思想・運動、民衆組織などのネットワークの実態を解明する。そして、以上の成果の上に立ち、現代社会におけるイスラームの在り方とイスラームが提起する諸問題を検討する。

研究活動は、本学拠点として市ヶ谷キャンパスに設置されたイスラーム研究センターが主体となり、研究会やシンポジウムなどの開催を通じて推進するほか、国内外の研究者や研究機関との積極的な連携を進め、ネットワークを通じた活動を展開する。

活動の成果は、①SIAS Working Paper Series（本学イスラーム研究センター発行）②『上智アジア学』③イスラーム地域研究事業全体の刊行物④その他の出版媒体⑤本学拠点ウェブサイト（<http://www.info.sophia.ac.jp/SIAS/index.html>）など多様な媒体を通じて順次発表する。（なお、昨年度まで実施した上記の文部科学省委託事業「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」の公募研究と拠点強化事業の成果については、SOIAS Research Paper Series（本学イスラーム地域研究機構（文科省委託事業推進部門）発行）にて成果発表を行った。）

3. 研究の成果

本学拠点では、以上の研究目的・方法・内容に基づいた研究活動に継続的に取り組んでおり、これまで着実な成果を積み上げてきた。2012年度については、延べ16回の研究会、公開講演会、シンポジウム、国際ワークショップなどの開催と9回の海外調査を実施し、成果物としてワーキングペーパーとリサーチペーパーを合わせて5冊刊行した。

また、「イスラーム地域研究」の重要な課題である近年のアラブ政変に関する研究成果を発展させる形で引き続き研究会活動などを通じて議論を行ったことに加えて、より日本に地理的に近く、今後の政治的・経済的・社会的連携が必須となるアジア地域のイスラーム地域についての研究も本格的に実施した。今年度は、2013年10月19日に「多文化交流のなかのイスラーム：東南アジアの写本美術、物語、装いから」と題する国際シンポジウムを主催し、ソ連崩壊後に存在感を増す中央アジア地域でも調査を行うなど、中東のみではなく東南アジアや中央アジアといった日本にとって今後極めて重要な意味を持つ諸地域におけるイスラームを軸とした研究・分析を展開している。さらに、11月2日～4日の日程でパキスタンのラーホールにおいて、国際シンポジウム「New Horizons in Islamic Area Studies」が開催され、本学拠点に所属する研究者たちも多数が成果報告やポスター発表を行うと共に、活発な議論を展開した。

今後の課題としては、「イスラーム地域研究」が中東のみならず、アジア・アフリカの広大な地域における研究を展開しているため、イスラームという宗教の枠組みの中では議論され難いキリスト教などの諸宗教との関係を、現状分析に留まらず、歴史的な文脈も踏まえて分析し、総合的な理解を提示することである。本プロジェクトでは、これまでに培われた研究基盤とネットワークを生かして、さらに精緻な研究・分析を進めていく計画である。